特別セッション（関連行事）

木造建築の振興とSDGsの視点

日時：2021年10月17日（日）13:00～15:00
会場：国立京都国際会館 Room A

開催主旨

木造建築物とSDGs（Sustainable Development Goals持続可能な開発目標）の関わりは深い。木材を使用して長寿の建築を作ることは、含まれる炭素を長期にわたり固定することになりゴール13（気候変動）に寄与する。人工林の持続可能な管理はゴール15（陸上資源）に関連する。災害時に安全で安心できる建築はゴール11（住み続けられるまちづくり）に貢献し、高い環境性能の建築はゴール7（エネルギー）やゴール3（健康）にも貢献する。複数ゴールに関連する社会のカーボンニュートラル化における責任も大きい。

特に住宅であれば、それは人生最大の買い物であり、ゴール12（つくる責任・つかう責任）を実感し学ぶ良き教材となる。サプライチェーンまで含めれば、その関係者は地方の林業・林産業者から流通事業者、建築や家づくりを担う工務店やハウスメーカーに及び、その振興は住まい手を含む関係者のパートナーシップ（ゴール17）が鍵となる。

SDGsが目指す社会の実現に向け、あらゆる産業にその事業目的を再定義し、貢献することが求められる。建設業・住宅産業にも従来から持つ価値をSDGsで説明するだけでなく、その領域を広げて新たな価値創造に貢献することが求められる。

このセッションでは、木造建築/木造住宅の意義や価値をSDGsの視点から捉え直し、さらにSDGsの推進を事業として定義することにより、産業としての新たな展開と振興策を模索したい。

https://www.un.org/sustainabledevelopment/
"The content of this publication/website/event has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States"

プログラム

司会

高口　洋人（早稲田大学教授）
木造建築と林業・林産業の連携、サプライチェーンの効率化に取り組んでいる。建築物の省エネ、脱炭素化、建築の社会システム論が専門。エネマネハウス2015最優秀賞受賞チーム代表。第24回木材活用コンクール【未来の山創り賞】受賞。

浅利　美鈴（京都大学准教授）
京都大学大学院工学研究科・博士(工学)。京都大学地球環境学堂准教授。「ごみ」や「環境教育」「SDGs／持続可能なコミュニティ創出」などが研究テーマ。また、「びっくり！エコ100選」や「びっくりエコ発電所」、「3R・低炭素社会検定」「エコ～るど京大」「京都超SDGsコンソーシアム」などを立ち上げ、社会にムーブメントをおこすべく、実践・啓発活動や情報発信にも力を注いでいる。

(1) 趣旨説明

村上　周三（建築環境・省エネルギー機構理事長/東京大学名誉教授）
1942年愛媛県生まれ。東京大学生産技術研究所教授、慶應義塾大学理工学部教授、日本建築学会会長、建築研究所理事長を歴任。内閣府の環境未来都市構想有識者検討委員会、自治体SDGs推進評価・調査検討会では座長を務めた。

(2) 基調講演 「作品づくりと社会貢献の両立を目指して」

坂　茂（建築家/慶應義塾大学教授）
1957年東京生まれ。77-80年、南カリフォルニア建築大学(SCI-Arc, ロサンゼルス)在学。84年クーパー・ユニオン建築学部(ニューヨーク)を卒業。82-83年、磯崎新アトリエに勤務。85年、坂茂建築設計を設立。95年から国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)コンサルタント、同時に災害支援活動団体ボランタリー・アーキテクツ・ネットワーク(VAN)設立。フランス建築アカデミーゴールドメダル(2004)、日本建築学会賞作品部門(2009)、フランス国家功労勲章オフィシエ(2010)、オーギュスト・ペレ賞(2011)、芸術選奨文化部科学大臣賞(2012)、フランス芸術文化勲章コマンドゥール(2014)、プリツカー建築賞(2014)、JIA日本建築大賞(2015)、紫綬褒章(2017)、マザー・テレサ社会正義賞(2017)受賞。

(3) パネルディスカッション 「SDGsからひろがる木造住宅の新たな展開」

伊香賀　俊治
（慶應義塾大学教授）

1959年東京生まれ。早稲田大学大学院建築学専攻修了。22年間の日建設計勤務、2年間の東京大学助教授任官を経て、2006年より現職。日本建築学会副会長。建物のLCA、木質内装を含む建築デザインが睡眠効率と知的生産性に及ぼす影響などを研究。

清家　剛
（東京大学教授）

1987年に東京大学工学部建築学科を卒業し、修士課程を修了後、建築学科助手を経て1999年より東京大学の新しい大学院、新領域創成科学研究科の助教授となり、2019年より同教授。
建築構法、建築生産を主たる専門分野としており、近年は建設時の環境影響評価、解体・リサイクルなどに研究フィールドを広げている。

久原　英司
（エバーフィールド代表取締役、JBN・全国工務店協会環境委員会前委員長）

工務店の環境に対する取り組みを広げる委員会であるJBN・全国工務店協会環境委員会委員長・担当理事を務めると共に、自社での高性能住宅建設、地元の木材を使った木造応急仮設住宅・災害公営住宅建設に取り組んでいる。